

「全国栄養経営士のつどい」第4回大会の開催決定！ 2019年3月10日、大阪に集まろう！



全国から栄養経営士が集まった前回の札幌大会

一般社団法人日本栄養経営実践協会（代表理事宮澤靖）は、第4回となる「全国栄養経営士のつどい」を2019年3月10日（日）、国民會館武藤記念ホール（大阪市）で開催する。栄養経営士の活躍が医療・介護の未来を変えたいというビジョンを、開催の地である大阪から発信していく。

**関西支部の栄養経営士を核に
全国の会員が大阪にやってくる！**

今年3月、札幌で開催された「第3回全国栄養経営士のつどい」は、地元北海道をはじめ、全国から約150名が参加。多彩なゲストによる講演や栄養経営士による実践報告、協会の理事によるディスカッションが行われた。さらに終了後の懇親会では栄養経営士同士の交流も図られ、活気あふれる大会となった（カコミ記事参照）。

第4回となる全国大会は、今年2月に支部が開設したばかりの関西・大阪で開催することが決まった。現在、支部長である前島美千枝氏（医療法人嘉健会 思温病院管理栄養士）と大会テーマ及び内容について検討を重ねている。

4月の診療報酬・介護報酬の同時改定を踏まえ、これからの時代に栄養経営士はどのような役割を果たしてい

PLAYBACK

第3回 全国栄養経営士のつどい

特別講演として最初に登壇した厚生労働省保険局医療課長補佐（当時）の塩澤信良氏は、「2018年度診療報酬改定が示す方向性と管理栄養士に求められる役割」と題して講演。管理栄養士の現状の課題として、①医療施設・医療機能間および医療・介護・福祉間の共通言語化、②チーム医療への参画と存在感の発揮、③エビデンスに基づく政策立案への参画、という3点を挙げ、さらなる奮起を促した。

北海道支部支部長の医療法人社団佳生会理事長・児玉佳之氏、NPO法人マギーズ東京共同代表理事・マギーズ東京センター長の秋山正子氏という地域・在宅という現場で活躍されているお二方による特別講演では、具体的な事例を挙げながら管理栄養士への期待を語っていただいた。

栄養経営士による実践報告では、鈴木恵子氏（中頓別町国民健康保険病院）、相馬理沙氏（社会医療法人慈恵会聖ヶ丘サテライトクリニック本部事務局）、田中智美氏（医療法人溪仁会手稲溪仁会病院栄養部）、千葉枝里子氏（医療法人財団明理会東戸塚記念病院）の4名が、自身が栄養経営・マネジメントという観点から取り組んできた活動を報告。他の職種との連携や地域へのアプローチなど、従来の管理栄養士像とは異なる新たな視点から実践してきた取り組みに対して、場内からも大きな拍手が送られた。

大会終了後に行われた懇親会では、登壇した講演者も参加。会場で栄養経営士と歓談する姿も見られるなど、栄養経営士という枠を超えた、幅広い情報交換が行われる場となった。



登壇者も参加し盛り上がりを見せた懇親会での記念撮影

うな役割を果たしていくのか、何を期待されているのかを示し、栄養経営士一人ひとりが自信を持って新たな一歩を踏み出せる大会としていきたいと考えている。確定次第、当協会ホームページにも掲載する。

**実践活動の報告がさらに進化！
栄養経営士の活動を盛り上げる！**

今年大会でも全国で活躍する栄養経営士にその実践活動の成果を発表していただく「実践報告」のプログラムを設ける。過去2回の実施を経て、協会役員より「発表される内容が非常に濃いものである」と、発表者に対して協

会としてももっときちんと評価をすべきではないか」という声が上がっており、今年大会からは発表者に対する表彰制度を新設することになった。

詳細については現在検討中だが、発表された方を協会としてしっかりとバックアップしていくことで、「発表した」という結果だけでなく、終わるのではなく、その後も地域における栄養経営士のリーダーとして活躍していただけるような体制を構築していくことができればと考えている。報告者の枠を拡大する予定となっており、栄養経営士の皆様には、日頃の活動をぜひ大会で報告していただきたい。

全国から参加される方々がその知見を共有し、自分の職場に持ち帰って実践し、そこで得られた経験を支部研究会などの場でさらに多くの栄養経営士にフィードバックしていただく。そのような動きを通して、栄養経営に関する学びが全国に広がっていくことを願っている。

全国の栄養経営士の皆様にはぜひ大阪に足を運び、新たな知見を得るだけでなく栄養経営士同士の交流を深めることで、自身の新たな一歩を踏み出すきっかけとしていただきたい。

大会詳細については、決定次第、当協会のホームページにて順次公開していくほか、会員向けメールマガジン等でも情報を提供していく。

栄養経営サポーター特別座談会

管理栄養士も医療スタッフとして 病棟での活躍を！

「管理栄養士ではないけれど、栄養のことを学んでいろいろな人の役に立ちたい」。そんな熱い志を持った方々が当協会の栄養経営サポーターとして活躍されています。そんなサポーターから見て、栄養経営士や管理栄養士はどう見えているのでしょうか。そして栄養経営士にどんなことを期待しているのでしょうか。今回はそれぞれ異なる分野でご活躍中のお三方をお招きし、お話をうかがいました。

—まず、それぞれのお仕事と栄養経営サポーターを取得した動機などを教えてください。

間 私は高知出身で、医薬品卸の会社に勤務していました。2004年に社内の流動食の商品立ち上げに携わり、高知なので協会の代表理事である宮澤靖先生のところにも出入



左から間 直隆さん、前中拓也さん、古谷房枝さん

りしているうちに、気がついたら引きずり込まれていました(笑)。

古谷 千葉リハビリテーションセンターで教育担当の副看護部長をしています。以前は回復期リハ病院に勤務し、兼務で栄養部長もやっていました。そのときに看護師は食事介助をしていても、何を

どれくらい食べ、充足されているのかまでは考えていなかったと思います。栄養の勉強を始めた。近森病院の宮澤靖先生のところでNST専門療法士の臨地実習を行い、その後、サポーターの資格も取得しました。

前中 私は横浜の市ヶ尾病院で言語聴覚士として勤務しています。以前、カンファレンスで話についていけなかったことがあり、それから栄養やりはについて積極的に勉強するようにになりました。そしてこの資格を知り「少しでも管理栄養士さんとお話ができるようになれば」と思い、取得しました。

—皆さんから見ても、病棟の栄養士さんたちはいかがですか。

前中 職場の管理栄養士さんたちは嚥下訓練

「現状では難しい」「委託だから」と、自らバリアをつくってしまうこともありました。誰かモデルになるような人がいれば「こんなことができるんだ」と自信につながるのではないかと思います。

間 病棟を向いている人は生き生きしていますね。年齢に関係なく、挫折しながらも頑張っている。そういう姿を見ていると、私たちが少しでも協力できればと思います。

—多職種との連携、情報共有という部分ではいかがですか。

前中 患者さんと直接関わる管理栄養士さんが、少ない職場もありました。嗜好調査や栄養指導について「こちらの方はできますか」とよく質問されました。高次脳機能障害の有無だと思いますが、直接患者さんとお話することで、よりニーズに繋が



医療食品の会社勤務で複数の病院に営業で訪問されている間さん

—それでは管理栄養士、栄養経営士の皆さんにメッセージをお願いします。

間 名実ともに「医療スタッフ」という活動をしていただきたいです。



NST専門療法士、協会認定回復期リハ病院認定看護師の資格を持つ看護師の古谷さん

す。病棟スタッフの方たちとコミュニケーションを取って、全体がうまく回って管理栄養士に栄養を任せられれば、看護師さんは次の仕事ができる。結果的に患者さんのためになると思います。

古谷 根拠のある論文や経験知から、「栄養改善に向けた取り組み」を医師や看護師に提案する力を持つ、それは栄養経営士だからできることだと思います。力をつけて情報を発信して、周囲を巻き込んでいく。その輪が広がっていくと、多職種の連携で結果的にチーム力があがり、患者さんにも良い結果を与えられると思います。

前中 管理栄養士さんが病棟にいたことが普通になって欲しいですね。働く場所を変えるだけで患者さんが見えてくるし、毎日顔を合



言語聴覚士でリハビリを担当されている前中さん

管理栄養士と共に働く栄養経営サポーターの方々のお話からも、病棟に出て患者さんと接することの重要性が伝わってくるのではないのでしょうか。協会では、病棟で活躍し、発信力を持つ栄養経営士が1人でも増えるよう、尽力していきたいと思っています。

—本日は貴重なお話を本当にありがとうございました。

間 直隆 株式会社ファイン 医療食品部／特定社会保険労務士

古谷房枝 社会福祉法人千葉県身体障害者福祉事業団 千葉県千葉リハビリテーションセンター 教育担当 副看護部長 NST専門療法士 協会認定回復期リハ病院認定看護師

前中拓也 医療法人社団成仁会 市ヶ尾病院 リハビリテーションセンター 言語聴覚士

支部NEWS

関東支部

【関東支部】セミナーレポート

病院経営を知ると栄養部門としての動きがわかる

第1回「栄養部門マネジメントの基本」

日本栄養経営実践協会関東支部では、10月13日(土)にヘルスケアビジネス経営人材育成研究所所長で多摩大学・介護ソリューション研究所フェローの石井富美氏を迎えて、3か月連続で行う「栄養経営人財養成講座」の第1回を行いました。

運営=現場の今、経営=将来のための今という違いを知ろう

石井氏の講義は「今の医療政策がどうなっているのか」という説明からはじまりました。最初のうちは栄養部門との関連性に参加者の戸惑いが感じられましたが、解説を聞くうちに医療を取り巻く環境が変化していく方向性が理解でき、それが栄養部門にどう影響を与えてくるのかが納得できたようでした。とくに「地域包括ケアを進める=医療依存度が高くて今までなら病院にいた人が、介護施設や在宅に戻る」ということで、そのために平成30年度の介護報酬改定で栄養に関する項目が増えたのだという話には、皆さん大きくうなずくことしきりでした。

1回目のグループワークでは「在宅で医療依存度が高く、栄養管理が必要な利用者さんへのアプローチ」を例に今回の改定前後での変化や今後の取り組みについて話し合いました。発表では「リハビリ以外の連携がうまくいっていない」「施設と病院の考え方が違い、プレッシャーを感じる」など、あまり前向きな意見が出ませんでした。石井氏は「初めは病院側も施設側もドキドキするもの。でも、変えていくためにはそれを乗り越えなければ」と話しました。

その次は視点を変えて「経営とはなにか」を解説。石井氏は「運営は『現場の今』で日常の業務を実行すること、経営は『将来のための今』で、理念を実行するためにビジョン(理念に基づく未来像)に基づいて組織を発展させていくこと」と説明しました。これを元に「栄養部門ではどうやって理念を具現化すれば良いのか」を考えることが重要で「何をすれば良いかを考えれば目標が生まれる。目標が決まれば日々の作業でも意識が変わってくるはず」と説明し、意識を持つことの必要性を訴えました。

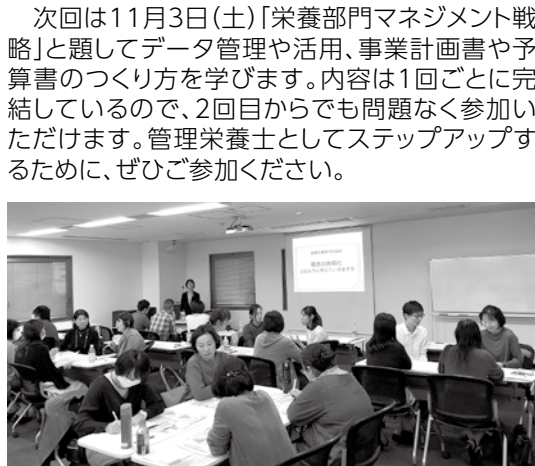
病院の理念を念頭に置いてグループワークで要求仕様書を作成

後半に入ると石井氏は病院の組織構造と業務の構造について紹介し「病院の命令系統がよくわからないのは、組織上の上司と作業の指示を出す人が同じではないことが原因」と説明。それを理解したうえで「経営判断に必要な情報をどこに持っていくかが重要」と説きました。

2回目のグループワークでは、病院の給食委託業者の変更のため「理念に基づいた要求仕様書と選定基準をつくる」というお題が出されました。4人1組で業務委託内容や参加資格、審査方法などを話し合い、すべての組が意見を発表。「給食委託経験5年以上の管理栄養士がいる」「減塩食の試食」「地元業者の利用」など、さまざまな意見が出ました。石井氏は「自分たちの病院に必要な給食を提供するために、ここだけは譲れない、という部分を選定基準に入れておくこと」とアドバイスし「今日、皆さんが発表した内容はお土産として持って帰って、今後に役立ててください」と話しました。

参加者からは「意見交換ができて良かった」「グループワークが刺激になった」との感想をいただき、手応えのある研究会となりました。

次回は11月3日(土)「栄養部門マネジメント戦略」と題してデータ管理や活用、事業計画書や予算書のつくり方を学びます。内容は1回ごとに完結しているので、2回目からでも問題なく参加いただけます。管理栄養士としてステップアップするために、ぜひご参加ください。



病院の理念を具現化する要求仕様書についてグループワークで熱心に話し合う参加者たち

第7回 全国医療経営士実践研究大会 札幌大会レポート

これからの時代に求められる顔と想いの見える連携を医療経営士がリードする！

10月20日(土)・21日(日)の両日、当協会も後援した全国医療経営士実践研究大会札幌大会(主催…一般社団法人日本医療経営実践協会)が札幌ビュウホテル大通公園で開催されました。「新時代を切り拓く医療経営士の挑戦と創造」顔と想いの見える連携づくりをテーマとして「医療経営の現場の最前線を感じるもの」となりました。

一般社団法人日本医療経営実践協会の吉原健二代表理事による主催者あいさつ(多田宏理事代読)で開幕した、全国医療経営士実践研究大会札幌大会。初日は全国自治体病院協議会会長の小野豊砂川市立病院名誉院長による基調講演のほか、医療機関・製薬会社・銀行それぞれに所属する医療経営士による特別講演に加え、今年度より新設された、同協会が行う医療経営に関する「指定課題研究助成」事業の中間報告として5名の報告者が登壇しました。

同研究助成事業は、医療経営に関する指定課題について、公募により助成対象者を決定するものです。第1回となる今回の指定課題

は「医師・看護師等の働き方改革」。それぞれの研究手法や調査方法などについての報告がなされ、来年度に行われる最終報告の内容に期待が高まるものとなりました。

大会2日目は、メイプログラムである医療経営士による演題発表。今年から「支部推薦」枠が新たに設けられ、全国8支部からそれぞれ推薦された発表者が登壇したほか、「公募」枠からの6名を加え計14組による発表が行われました。

医療経営士と一口に言っても、所属機関や部署はさまざま。経営企画部門の方はもちろんのこと、医療機関の院長や社会福祉法人の理事長、内科医に薬剤師と幅広い視点から

「経営」を捉えた内容となりました。特に注目を集めたのは、3名の医療経営士が支部を代表して共同発表を行った「日本医療経営実践協会北陸支部」。「北陸支部が提言する『連携』のあるべき姿とは？」をテーマに、支部の会員へのアンケート調査を通してこれからの連携のあり方について提言を行いました。大会の最後に行われた表彰式における講評のなかで、審査委員長を務めた県立広島大学大学院経営管理研究科(MBA)客員教授の吉長成恭日本医療経営実践協会参与から、「支部活動の先鋭的な事例であり、これからの地域支部のあり方を示した」と称えられるなど高い評価を受

け、審査委員特別賞が送られました。当協会も全国に5つの支部があり、それぞれの地域で研究会を開催するなど活動を展開しています。地域の会員同士が病院の垣根を越えたネットワークを構築し、お互いに刺激を受けながら地域の医療そのものを動かしていくという姿勢は、栄養経営士にとっても大いに参考になる内容だったのではないのでしょうか。

栄養経営士の全国大会ともいえる「全国栄養経営士のつどい」は、本紙1面に掲載のとおり来年3月10日(日)に大阪で開催されます。自身の意識改革・レベルアップはもちろん全国の栄養経営士とのネットワークづくりの機会に、皆様のご参加をお待ちしております。



全国から集まった医療経営士が晩秋の北海道を熱く盛り上げた

日本栄養経営実践協会 情報掲示板

セミナー情報

『地域栄養経営』贈呈

地域栄養経営全国キャラバン ダブル改定で広がる栄養管理の医療・介護連携 重症化予防というアウトカムをめざそう

今回の診療・介護報酬改定は医療と介護の管理栄養士が連携して、対象患者の重症化予防に努めることが評価される内容となっています。そこで何をめざしてどう連携すれば良いのか、医療・介護の専門職の方々が具体例を元に説明します。

●大阪会場

- 日程：12月1日(土) 13:00～16:30
- 講師：水野英彰氏(目白第二病院 副院長)
松尾 浩一郎氏(藤田医科大学 医学部歯科 教授)ほか
- 会場：アットビジネスセンター PREMIUM新大阪905号室
(大阪市淀川区西中島5-14-10 新大阪トヨタビル9F)
- 定員：150名(先着順)
- お問い合わせ：株式会社日本医療企画
TEL:06-7660-1761(担当:新免)

●仙台会場

- 日程：12月8日(土) 13:00～16:30
- 講師：水野英彰氏(目白第二病院 副院長)
五島朋幸氏(ふれあい歯科ごとう 院長)ほか
- 会場：ハーネル仙台(蔵王B) (仙台市青葉区本町2-12-7)
- 定員：100名(先着順)
- お問い合わせ：株式会社日本医療企画
TEL:022-281-8536(担当:浅石/大友)

●広島会場

- 日程：12月15日(土) 13:00～16:30
- 講師：水野英彰氏(目白第二病院 副院長)
西岡心大氏(長崎リハビリテーション病院 栄養管理室 室長)ほか
- 会場：JMSアステールプラザ(大会議室AB) (広島市中区加古町4-17)
- 定員：100名(先着順)
- お問い合わせ：株式会社日本医療企画
TEL:092-418-2828(担当:石田)
- 受講料(全会場/税込)：【当協会会員】3,000円 【一般】6,000円

協会事務局より

2018年12月期限会員の皆さまへ 年会費納入のご案内

本年12月に年会費の有効期限を迎える会員の皆さまに、当協会より、年会費納入のご案内を9月中旬に郵送しております。

ご確認、どうぞよろしくお願い申し上げます。

- 対象者：有効期限が「2018年12月19日」の個人正会員、栄養経営サポーター
- 年会費：【個人正会員】10,000円
【栄養経営サポーター】8,000円
- 支払期限：11月19日までに指定口座へ振込
- お問い合わせ：一般社団法人日本栄養経営実践協会
TEL:03-5289-7021

セミナー情報

医療・介護の現場力を高める「認知症ケアとカンファレンス」 ～ファシリテーションスキルを学ぼう!～

「認知症ケア」をテーマに認知症ケアの基本から、ホワイトボードを活用したケアカンファレンスの有効な進め方まで、講義とグループワークを通じて医療・介護の「現場力」の向上をめざします。

- 日程：11月17日(土) 14:00～17:00
- 講演：平野亨子氏(医療法人マックスール マックスールスクール 顧問・専任講師/認知症ケア上級専門士)
- 参加費(税込)：【当協会会員】2,000円 【一般】3,500円
※懇親会あり(自由参加、【参加費】4,000円)
- 会場：上田公認会計士事務所セミナールーム
(大阪市中央区道修町1-7-10 扶桑道修町ビル2F)
- 定員：35名(先着順)
- お問い合わせ：株式会社日本医療企画 関西支社(担当:喜津木)
TEL:06-7660-1761

学会情報

第8回日本リハビリテーション栄養学会学術集会 多職種で未来をひらくリハ栄養

多職種がともに学び、実践しながらリハ栄養の未来をひらいていくことを目的に開催され、当協会の宮沢靖代表理事が教育講演で登壇されます。

- 日程：12月1日(土) 9:00～19:00
- 講演：若林秀隆氏(横浜市立大学附属市民総合医療センター リハビリテーション科)
近森正幸氏(社会医療法人近森会 理事長)
宮澤靖氏(社会医療法人近森会 近森病院臨床栄養部部長
一般社団法人日本栄養経営実践協会 代理理事)ほか
- 参加費(税込)：【有料会員】7,000円
【無料会員・一般】9,000円
- 会場：サンポートホール高松
(高松市サンポート2-1 高松シンボルタワー・ホール棟)
- お問い合わせ：学術集会事務局(KKR高松病院 リハビリテーションセンター内 担当:石川淳)
TEL:087-861-3261

第9回 摂食嚥下リハビリテーションと栄養ケアセミナー ダブル改定を追い風にする嚥下調整食の地域連携 ～医療と介護をつなぐ物性の共通言語を築こう～

講演1:咀嚼機能評価と地域連携(仮題)

菊谷 武氏 日本歯科大学 口腔リハビリテーション多摩クリニック 院長

講演2:誤嚥性肺炎予防のための嚥下機能評価(仮題)

藤谷順子氏 国立国際医療研究センター病院 リハビリテーション科 医長

講演3:平成30年度診療報酬改定と管理栄養士の栄養指導(仮題)

増田利隆氏 厚生労働省 保険局 医療課

講演4:診療報酬改定と在宅を見据えた栄養指導のあり方(仮題)

田中弥生氏 関東学院大学 栄養学部 管理栄養学科 教授

講演5:嚥下調整食の地域連携推進(仮題)

栢下 淳氏 県立広島大学 人間文化学部 健康科学科 教授

※講演の順番・演題・内容は予告なく変更する場合がございます。

※本セミナーへの参加により、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士の単位を最大20単位まで取得できます。

開催日：11月23日(金・祝) 10:00～16:30(予定)

会場：東医健保会館(東京都新宿区南元町4番地)

参加費：当協会会員**5,000円** 一般8,000円

定員：250人(先着順)

主催：株式会社日本医療企画

くわしくは [日本医療企画](#) [嚥下セミナー](#)

検索

【お問い合わせ・お申し込み先】 株式会社日本医療企画 TEL:03-3256-2862(担当:平山・原田)